



今年度も「自立活動部だより」として本校の自立活動についてお知らせします。「すてっぷてっぷ」というタイトルは、保護者と教職員とが連携して、児童生徒の次への歩み（ステップ）を支援していきたいという意味を込めて名付けています。

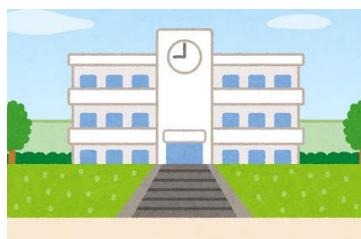
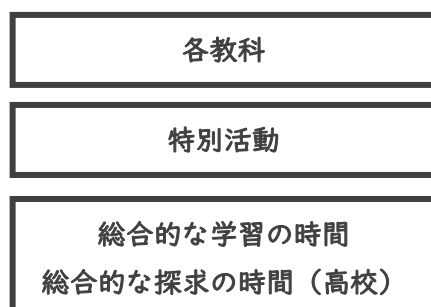
本校には自立活動専任教員が3名おり、学級担任と連携しながら、児童生徒が安定した学校生活が送れるようアセスメントや指導・支援をしています。また、必要に応じて、作業療法士（OT）と理学療法士（PT）とも連携し、自立活動の視点から、児童生徒にとってより良い教育実践が行えるよう努めています。

今年度も、学習で付けた力が日常の場面や生活に般化できることを意識しながら、指導を進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

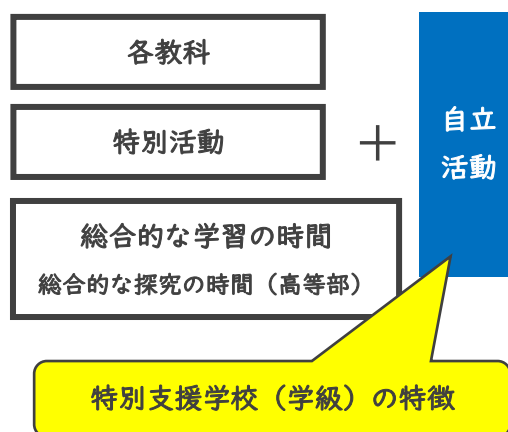
1 自立活動とは

特別支援学校には、国語科や算数科をはじめとする「各教科」、学級活動や行事を行う「特別活動」、また、問題解決能力等を育てる「総合的な学習の時間」（高等部は総合的な探究の時間）の他に、「自立活動」という特別な指導領域があります。「自立活動」の目的は、児童生徒個々の日常生活や学習場面での「つまずき」や「困難さ」を主体的に改善・克服していくことです。「自立活動」は特別支援学校や特別支援学級独自のものであり、とても重要な領域です。

<小中学校（通常学級）、高校>



<特別支援学校 特別支援学級>



2 自立活動の内容

日常生活や学習場面での「つまずき」や「困難さ」は、一人一人違います。また、それを改善・克服していく方法も人によって様々です。特別支援学校では、一人一人の「つまずき」や「困難さ」の原因を見つけ、個人に適した方法で改善・克服していくことを目指します。つまり、自立活動の内容は一人一人のオーダーメイドで個別に組み立てることになります。

裏面では、実際の指導の様子を紹介します。

3 指導の様子

自立活動は自立活動の時間に指導を行うものと、教育活動全体を通じて指導を行うものの両方を関連させながら進めています。児童生徒の実態に応じて様々な連携形態や指導方法を進めています。

自立活動の時間における指導

自立活動「ほっぷすてっぷ」(小学部 低学年)



自立課題（1人で課題をする）と対面課題（先生と課題をする）の両方を設定し、学習を進めています。対面課題では相手を意識し、『応じる』力や『合わせる』力も意識して取り組んでいます。



自立活動「うんどうきのう」(小学部 高学年)



個々の身体の課題に合わせて、様々な道具を使って取り組んでいます。教室では取れない姿勢を安全に取れるように支援しています。

自立活動「げんご」(中学部)



学級や家庭で使う言葉や、本人の伝えたい言葉を本人のペースで学ぶことで、学級や少し大きな集団でも、自分の思いを出せるように支援しています。

自立活動「運動機能」(高等部)



卒業後の生活を見据えてタブレット端末で取り組むメニューを確認したり、タイマーを使ったりして自分でトレーニングやストレッチに取り組めるように支援しています。

教育活動全体を通じて行う指導

学習したことを様々な場面で般化できるように意図的な場面を設定し、指導します。
日常生活の指導や各教科等でも自立活動の視点を意識し、取り組んでいます。

日常生活の指導（給食）



「○○ください」(おかわり)と、給食場面で要求の練習に取り組む児童生徒もいます。要求の強い場面で学習を積み、定着したら他の場面に移行させていきます。

日常生活の指導（給食）



「○○」してから「○○」好きなものをおかわりするために、ちょっと頑張ったら食べられるものを食べるといったやりとりの学習もしています。その際は、視覚的に分かりやすく、やりとりの内容を提示します。

日常生活の指導（給食）



安全におしく給食を食べるために、一人一人の食べる様子から、それぞれの課題に合った食形態や食具（食器）、食べ方を見つけていきます。

遊びの指導（各教科等合わせた指導）



学級全体の活動の中でも、個に応じた提示や活動の仕方等、児童生徒が主体的に動けるように担任と相談したり、指導を行ったりします。